

山陰中央新報

1月6日
土曜日

発行所
山陰中央新報社

〒690-8668
松江市殿町383
電話 総合案内
0852(32)3440

企業と共同設置

治療失調症統合 島大が研究講座

免疫障害因 根治へ創薬目指す

妄想などの症状を引き起こす。同大によると、人口の約0・8%が発症し、そのうち3割が免疫の異常活性化が原因とされている。免疫抑制剤や漢方薬で症状を抑える治療法はあるが、重い副作用や、内服し続ける必要がある。

同大医学部は、2005年から精神神経疾患の治療に関する研究を実施。免疫抑制剤が精神神経疾患に効果があることを実証するなど研究成果を挙げている。

医学部の研究とRESVOの事業に共通する点があり、両者の知見と技術を生かせば治療法の開発につながるの見込み、共同研究に取り組むことにした。

講座では、副作用が少なく、短期間の服用で済む治療薬と、免疫障害による統合失調症を血液で診断する検査薬を開発する。

同社取締役で医学博士の大西新さんが動物を使って基礎研究を行い、成果を基に、島根大医学部精神医学講座の宮岡剛准教授らが臨床試験を実施。効果が実証されれば、製薬会社を通して創薬する。3年間で3千万円の研究費用はRESVOが全額負担する。

島根大の服部泰直学長は

「統合失調症で苦しむ多くの患者の希望となり、光となる治療法開発に少しでも貢献したい」とし、同社の

小林宣文社長は「統合失調症の根治に向け、一丸となって頑張る」と話した。
(月森かな子)

島根大は5日、免疫障害を原因とする統合失調症の根治に向けた治療法開発を目指し、難病の治療や検査薬の研究開発を手掛けるRESVO(東京都)と、「免疫精神神経学共同研究講座」を同大医学部(出雲市塩冶町)に開設した。3年かけて基礎研究と臨床試験を重ね、同症の診断を行う検査薬と治療薬の開発につなげる。

統合失調症は精神神経疾患の一つで、幻覚や幻聴、